

天徳院前田家墓所

一、はじめに

数年前から古い絵葉書を集め始め、自分がまだ生まれる前の金沢を知ることが楽しみになりました。その中でも二年ほど前に入手した一枚をいつか調べたいと思っていました。

絵葉書の題名は「天徳院(旧藩主前田家)御廟之二」。今は失われた天徳院にあった墓所です。そこには二つの墳墓が写っていました。

折しも平成二十二年に墓所跡である小立野小学校で発掘調査が実施され、昨年秋(平成二十五年十一月)には金沢市埋蔵文化財センター主催の市民ふるさと歴史研究会で、天徳院墓所を含めた前田家墓所をテーマに講演会が開催されました。

これらの機会を得て、今回は天徳院前田家墓所について調べてみました。

古絵葉書



【製版数販館前寫田島洋金】 (十) 二之廟御(家田前主藩舊)院徳天 (洋金貫加)

塩
谷
忠
士

(加賀金沢)天徳院(旧藩主前田家)御廟之二(十)

二、前田家と天徳院

あらためて説明するまでもないことですが、天徳院は三代藩主利常の正室珠の法号であり、珠の菩提寺として、実子である四代光高により建立された曹洞宗寺院です。同寺は、宝円寺とともに曹洞宗の触頭として、藩内五十一ヶ寺をその触下としていた前田家とは非常に関係の深い寺院でした。

それは前田家の歴代藩主の菩提寺が、宝円寺とほぼ交互に選ばれている(宝円寺が六人、天徳院が五人とほぼ同数)ことからして明白でしょう。

対して藩主の墓所は、野田山が九人、天徳院が二人となっていることから、菩提寺と墓所は対(セット)で決められたものではなく、また藩主の墓所をどこに定めるか慣例もなかったようです。特別な理由がある場合を除き、野田山に葬ったとも言えるかもしれません。

加賀藩主一覽

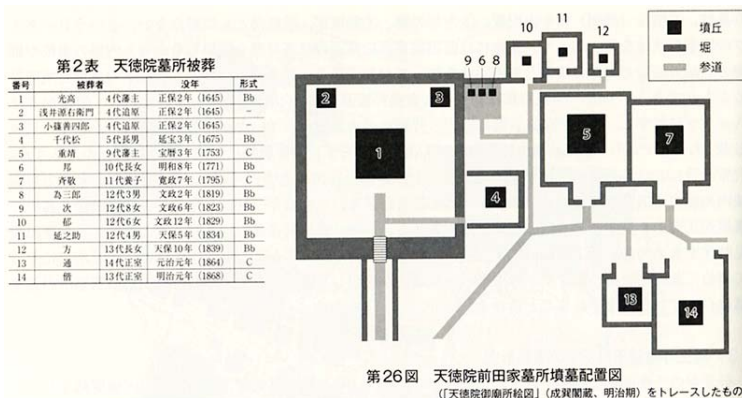
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	代
慶寧	齊泰	齊広	治脩	重教	重靖	重熙	宗辰	吉徳	綱紀	光高	利常	利長	利家	名前
齊泰	齊広	重教	吉徳	吉徳	吉徳	吉徳	吉徳	綱紀	光高	利常	利家	利家	利昌	実父
(神葬)	(神葬)	天徳院	宝円寺	宝円寺	天徳院	宝円寺	天徳院	宝円寺	天徳院	宝円寺	天徳院	瑞龍寺	宝円寺	菩提寺
日暮里 ↓野田山	日暮里 ↓野田山	野田山	野田山	野田山	天徳院 ↓野田山	野田山	野田山	野田山	野田山	天徳院 ↓野田山	野田山	高岡・利長墓所	野田山	墓所

三、天徳院に葬られた藩主

天徳院に葬られた藩主は、四代光高と九代重靖の二人です。現在はその二人を含め、藩主の墳墓（利長のみ拝墓）はすべて野田山墓所にあります。野田山の光高と重靖の墳墓は、学校用地確保のため、昭和二十七年にまわりの石灯籠と合わせて改葬されたものであり、二人の墳墓が他の藩主と形式や規模が異なるのもそれが理由のようです。次に、二人の藩主が天徳院に葬られた経緯・理由を自分なりに考えてみました。

四代光高の墳墓（第26図の1）は、天徳院墓所で現在分かっている中では最大規模でした。その理由は、実母である天徳院の実子であったこと、さらに天徳院は將軍家から嫁いでおり光高は徳川家の外孫であるので、前田家は徳川家に対する配慮として、前田家一族の野田山ではなく徳川家の母のそばに埋葬したと考えられます。しかし、母天徳院の墳墓は、五十回忌に野田山に改葬された

天徳院墓所墳墓配置図



第26図 天徳院前田家墓所墳墓配置図
〔天徳院御廟所絵図〕（成興閣藏、明治期）をトレースしたもの

調査報告書「小立野四丁目遺跡」から抜粋

ため、墓所内の場所やその規模が不明であるのが残念です。

それでは、九代重靖(第26図の5)が天徳院に葬られた理由は何だったのでしょうか。それについて、仮説を2つ考えてみました。

その一、重靖は藩主になってから、あまりに短命で亡くなりました(六カ月余り)。藩主となり初めての江戸から金沢へ下向途中、病気にかかり金沢で亡くなりましたが、襲封からわずか四カ月余り、重靖の治世はなかつたとも言えそうです。天徳院には、五代綱紀の嫡子千代松の墳墓がありますが、藩主の嫡子が襲封前に亡くなった場合には、野田山に葬られることはなかつたようです。同じく実績を残せなかつた重靖は、これら嫡子と同じく捉えられ、野田山に埋葬されなかつたのかもしれない。

その二、御家騒動の一つとして有名な加賀騒動が及ぼした影響との関わりです。加賀騒動は、六代吉徳の没後に起きた一連の藩政の主導権争い・跡継争いと言われていますが、七代宗辰から九代重靖までわずか数年で次々と藩主が亡くなりました。中でも八代重熙の嫡子争いは、最初六代吉徳の側室真如院の子、利和に決まっていたところ、肅正に巻き込まれて重靖になった経緯があります。この重靖の実母善良院こそ、加賀騒動の肅正した側の中心人物の一人だと言われています。重靖の後十代藩主になった重教は、まだ藩内で騒動が収束しておらず、肅正された側の復讐で墳墓が荒らされることから守るために、辺境の野田山ではなく、警備の厳しい城下の天徳院を選んだと私は考えています。肅正された利和と弟の八十五郎はまだ獄中であって生きてお

り、一年後には吉靖の後を追うように亡くなることになりましたが、それらの墳墓もまた天徳院内につくられました。重教は、肅正した側と肅正された側の墳墓を同じ寺院内につくることで、最終的な事態の収束を図ろうとしたのかもしれない。

四、おわりに

今回、絵葉書一枚から天徳院前田家墓所について調べてきました。そこから天徳院が選ばれた理由を自分なりに想像してみたものの、それを裏付ける確かな史料はありません。しかし、史実からその周辺へと想像を膨らませることも、歴史の楽しみのひとつではないでしょうか。

最後に、謎であった絵葉書の墳墓は、手前が十三代齊泰の正室偕(第26図の14)、奥が十四代慶寧の正室通(第26図の13)のものだとわかりました。

参考資料

- 「野田山・加賀藩主前田家墓所調査報告書」平成二十年 金沢市埋蔵文化財センター・編
- 「小立野四丁目遺跡 天徳院前田家墓所」平成二十五年 金沢市埋蔵文化財センター・編
- 「第十四回市民ふるさと歴史研究会 もうひとつの前田家墓所」配布資料
- 「加賀騒動」昭和五十四年 若林喜三郎著・中央公論社